

Supporting 教育研究支援

教育・研究を
支える様々な取組み

附属図書館に24時間学習室を開設。子育て支援や教育支援プログラムの活用。

教育・研究活動を支える図書館機構

京都大学には附属図書館をはじめとして各部局等にも図書館・図書室があり、合わせて約680万冊の蔵書を誇ります。それぞれの図書館・図書室が分野に合わせた図書や雑誌を収集・整理し、貸出や文献調査などのサービスを提供するほか、京都大学学術情報リポジトリ(KURENAI)において、博士学位論文の全文データのほか、学内で日々創造される研究・教育成果をインターネット上に公開して、広く社会にアピールしています。

また、現代の学術研究には欠かすことのできない電子ジャーナル

や電子ブック、様々な分野のデータベースを揃え、大学内のどこからでもアクセスできるようになっており、各図書館・図書室や研究室の端末からもこれら最新ツールが利用できます。

各種データベースの使い方や論文・レポートの書き方など、学習・研究に必要な不可欠な学術情報リテラシーを高めるための講習会等も全学体制で行い、また各図書館・室にて、学習に快適な環境も整備しています。

附属図書館



附属図書館は1899(明治32)年に創立され、約91万冊の図書をはじめとして、多くの学術雑誌やデータベースを備え、京都大学の学生や研究者の学習・研究活動を支援しています。

館内には、約1300の閲覧席、共同学習の場ラーニング・コモンズ、研究個室、共同研究室、24時間利用可能な学習室24、DVDやCDを備えたメディア・コモンズ、情報端末エリアなどを備えており、多様な利用にえています。

開館時間は、平日は8時～22時、土・日、祝日も開館しており、一

日に平均3,500人が訪れます。

また、教育・研究活動の成果である学術論文、貴重資料画像、蔵書検索システムをインターネットで広く社会に公開し、京都大学からの学術情報の発信にも力を入れています。



大学院教育における4大学間(京都大学、東京大学、慶応大学、早稲田大学)の学生交流に関する協定

学問の発展やグローバル化の進展に伴い、1大学ですべての学問分野を完全にカバーすることは困難になっています。大学院生が教育を受けることについても自大学内だけに留まらず、他の大学に興味のある分野があればそこで教育の一部を受けられるようにすることで、こうした困難を克服することが可能となります。大学院生に多様な教育・研究指導を受ける機会を提供し、もって学術の発展と有為な人材の育成に寄与することを目的として、4大学は大学

院教育における大学間学生交流協定を締結しています。

この協定では、受け入れた学生を研究指導した教員は、当該学生の所属大学大学院研究科の承諾のもと、博士学位論文審査に加わることも可能とするなど、大学院教育における交流をより一層推進しています。

なお、派遣先の大学の授業料等は不要とすることにしています。

研究科横断型教育プログラム



学術研究は、近年高度専門化するだけでなく、ますます複雑化、学際化しつつあり、旧来の専門領域の区分に収まらない総合的なアプローチを必要とする課題も急増しています。このような状況の中で、大学院生が広い視野を持ち、新しい学問領域を創造できるよう能力を備えるためには、各研究科が実施している専門教育に加えて、研究科を横断して実施する教育プログラムが必要と考えられます。この必要性に鑑み、本学では平成21年度から、幅広い専門知の涵養と国際的な視野の形成、世界的リーダーの養成を目指し、世界最高水準の研究をおこなう教員、研究者が、大学院生のための文理横断的、分野横断的な教育プログラムを提供しています。

<http://www.kyoto-u.ac.jp/ja/education-campus/cross/>

男女共同参画推進センター

育児支援・介護支援事業を通して、家庭生活との両立支援を行っています。また、高・大連携、地域連携による次世代育成支援事業を実施し、京都大学の男女共同参画を推進しています。

保育園入園待機乳児のための保育室

学生、研究等に携わる教職員の勉学・研究・教育と育児の両立を支援することを目的とし、男女共同参画推進センター内に、毎年度後半より保育室を開室しています。この保育室は、年度途中の出産や転勤の場合、子どもを保育園に入園させることが難しいことが多いので、そのような人たちが支障なく勉学・研究・教育を続けることができるように設置されました。

病児保育室

京都大学に所属する教職員及び学生を対象に、子どもが病中・病後のため保育園や学校へ登園・登校できない時、親が仕事や研究を休むことなく、子どもの保育ができる環境を提供する施設です。病児保育室は附属病院の中にあり、感染隔離室も設置しています。小児科医、看護師、保育士が常駐する安心できる環境で病児の保育を行います。

女子高生・車座フォーラム

より多くの女子高校生が京都大学で学ぼうと思えるよう、志望する分野の教員・研究者・学生等と話をすることにより学生生活や研究生活を身近なものとし、理解し感じてもらえるようにする催しを行っています。



<http://www.cwr.kyoto-u.ac.jp/>

京都大学優秀女性研究者賞（たちばな賞）

本制度は、人文・社会科学又は自然科学の分野において、優れた研究成果を挙げた若手の女性研究者を顕彰することにより、当該若手女性研究者自身及びこれに続く多くの若手女性研究者の励みとし、ステップアップに繋がるよう研究意欲を高め、もって本学、さらには我が国の学術研究の将来を担う優れた女性研究者の育成等に資

することを目的として、平成 20 年度に創設されました。

学生部門と研究者部門を設けており、さらに平成 25 年度からは各部門に京都大学優秀女性研究者奨励賞を設定して、顕彰しています。



Supporting 経済生活支援

安心して学問・研究に
取り組んでいただくために

授業料免除では出願した大学院生の75%以上が免除許可を受けています。

本学では既存の入学料・授業料免除制度に加えて、大学独自の授業料免除枠を設けるとともに、ティーチング・アシスタント (TA)、リサーチ・アシスタント (RA) 制度の充実を図る等、様々な支援策を工夫しています。

授業料・入学料免除等

I. 入学料免除・徴収猶予

経済的理由によって入学料の納付が困難であり、かつ、学業優秀と認められる場合及び入学前1年以内において、出願者の学資を主として負担する方(以下「学資負担者」という。)が死亡し、又は出願者若しくは学資負担者が風水害等の災害を受け、入学料の納付が著しく困難であると認められる場合は、選考の上、入学料の半額免除及び徴収猶予を受けることができます。

平成26年度入学料免除状況

□修士課程

	出願者	半額免除者数	許可率
4月入学	686	221	32%
10月入学	16	2	13%

□博士課程

	出願者	半額免除者数	許可率
4月入学	81	40	49%
10月入学	17	4	24%

II. 授業料免除

経済的理由によって授業料の納付が困難であり、かつ、学業優秀と認められる場合及び授業料の納付期限前6月以内(入学した日の属する期分の授業料免除の場合は、入学前1年以内)において、学

資負担者が死亡し、又は出願者若しくは学資負担者が風水害等の災害を受け、授業料の納付が著しく困難であると認められる場合は、選考の上、授業料の全額又は半額免除を受けることができます。

平成26年度授業料免除状況

□修士課程

	出願者	全額免除者数	半額免除者数	許可率
前期	1546	593	570	75%
後期	1618	840	406	77%

□博士課程

	出願者	全額免除者数	半額免除者数	許可率
前期	1227	691	371	87%
後期	1230	802	287	89%

平成26年度入学時に要する納付金

入学料	授業料
282,000円	(半期) 267,900円 (年額) 535,800円
	※法科大学院は(年額) 804,000円

奨学金制度

学業成績が優れかつ経済的な理由により就学が困難である場合に奨学金を申請することができます。

III -1. 日本学生支援機構奨学金

無利子貸与の第一種奨学金と有利子貸与の第二種奨学金があります。

貸与月額等は次のとおりです。

奨学金貸与金額

課程	種別	貸与月額
修士課程 専門職学位課程	第一種奨学金	5・8.8万円から選択
	第二種奨学金	5・8・10・13・15万円から選択
博士後期課程 4年制博士課程	第一種奨学金	8・12.2万円から選択
	第二種奨学金	5・8・10・13・15万円から選択

※法科大学院の第二種奨学金に限り、さらに19・22万円から選択できます。

※大学院第一種学生で、在学中に特に優れた業績を挙げた者として認定された場合は、奨学金返還の全額又は一部が免除される制度があります。

III -2. 地方公共団体奨学金及び民間団体奨学金

日本学生支援機構奨学金以外に地方公共団体奨学金及び財団法人等の出資による民間団体奨学金などの奨学金制度があります。募集の条件は団体により異なりますが、募集時期はほとんどが4月～5月に集中しています。

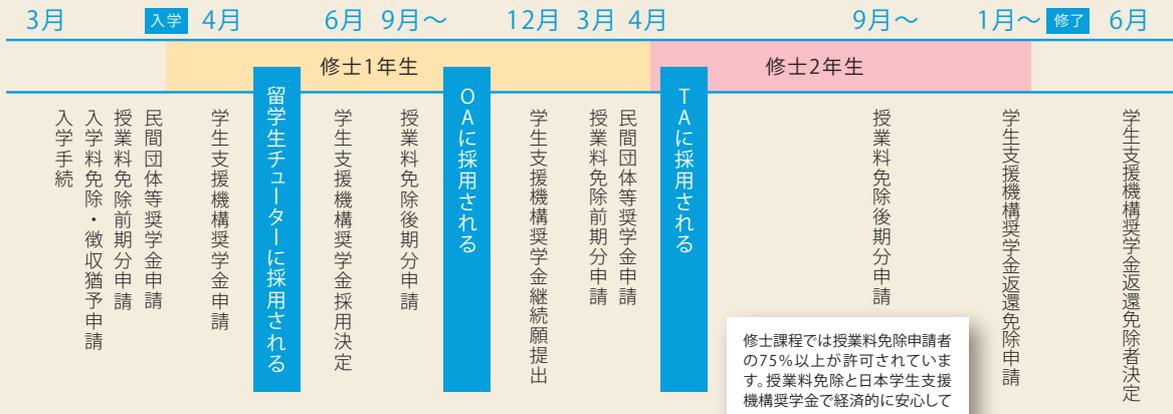
なお本学では、主として学務部で取り扱っていますが、それらのうち大学推薦によるものは事前に一括して申込を受け付けます。詳細は本学ホームページを参照してください。

TA・RA 関係

教育・研究補助業務を行った大学院生(ティーチングアシスタント(TA)及びリサーチアシスタント(RA))への支給総額は7億円を超えています。(平成25年度実績)

また、オープンキャンパスや進学ガイダンスの開催に係る業務補助等(オフィスアシスタント(OA))に対し、本学在学学生を採用し、謝金を支払っています。

修士学生の年間スケジュール(一例)



京大 学生生活 白書 (平成25年度より)

平均収支金額

1か月の平均収入金額

(単位:千円)

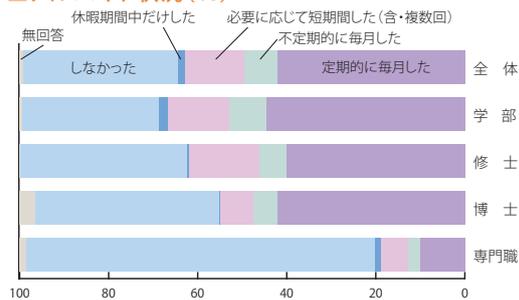
	家族から (除・授業料等の大学納付金分)	奨学金・研究奨励金	アルバイト	その他	収入合計
全体	53.97	32.54	33.58	4.55	124.64
学部	59.68	17.52	21.03	1.27	99.50
修士	58.33	39.29	21.07	1.73	120.42
博士	16.95	91.97	116.03	24.39	249.35
専門職	65.82	39.72	23.28	6.22	135.04

1か月の平均支出金額

(単位:千円)

	食費 (含・自宅滞学者の外食費等)	住居費 (家賃・電気・ガス・水道)	衣服・嗜好品・ 日用雑貨	学費 (部費・教材費・論文代)	課外活動・ 教養娯楽費	情報・通信費	医療費 (含・健康保険の場外)	その他	剰余金・預貯金	支出合計
全体	28.05	40.49	10.78	8.90	8.60	4.37	2.11	2.29	19.06	124.64
学部	24.51	35.53	9.26	6.96	7.74	3.37	0.87	0.56	10.70	99.50
修士	28.76	42.32	9.94	8.63	7.50	4.29	1.44	1.04	16.52	120.42
博士	42.44	59.88	19.87	18.24	15.09	9.09	9.22	12.40	63.12	249.35
専門職	34.00	46.70	8.73	10.58	5.89	5.21	1.55	3.12	19.25	135.04

アルバイト状況 (%)



アルバイトの職種 (%)



保険制度

学生教育研究災害傷害保険(学研災)・学研災付帯賠償責任保険(付帯賠償)

学研災は、正課や学校行事中、課外活動中、これらに伴う通学中等の事故により、学生が被った傷害に対して適用される保険であり、学生生活を送るうえで重要な役割を果たします。また、学研災の付帯保険として、上記活動中(一部除く)に学生が法律上の損害賠償責任を負うことで被る、対人・対物の損害を対象とした付帯賠償があります。

なお、本学では入学の際、原則として学研災・付帯賠償に全員が加入することとなっています。保険内容の詳細については、本学ホームページを参照してください。

URL: <http://www.kyoto-u.ac.jp/ja/education-campus/campus/health/saigai.html>

Supporting 経済生活支援

安心して学問・研究に
取り組んでいただくために

福利厚生

京大大学生協同組合

校内のキャンパスには、京大大学生協同組合が運営する食堂、ショップ、カフェレストランなどがあり、京都大学での教育・研究生活を幅広くサポートしています。生協食堂では安全で安心な食材を使用し、栄養バランスのとれた豊富なメニューで、朝食から夕食時間帯までの食生活のサポートを行うとともに、ショップでは専門書、雑誌から文具類、パソコンまで、大学での研究に必要な商品を取り揃え、サービスを提供しています。

特に書籍・雑誌、CD/DVDは生協組合員の特典として定価の10%引で提供するとともに、食堂の利用や、食品・飲料の購入に応じたポイントサービスによる利用還元を行っています。

なお、利用時には生協への加入を行ってください。

加入出資金 20,000円(50口) 脱退時に返還されます

ショップ内組合員センターカウンターで受付けています。
加入すると大学ICカード(学生証)を使用して、電子マネー・ポイント機能を付加することができます。

学生生活で万一の事故・病気に備えた「学生総合共済」制度があります。学生総合共済は、事故や病気が24時間保障されること、また、一部の例外を除いてあらゆる事故や病気も保障されることなど、学生生活にフィットした保障内容となっています。詳細はホームページ(S-COOP) <http://www.s-coop.net/> を参照してください。



■各施設の営業時間(2014年4月現在)

吉田キャンパス

店舗名	主な営業内容	営業時間
時計台生協ショップ	文具、食品、日用品、映画等のチケット 京大オリジナルグッズの販売	10:00～20:00(平日) 11:00～15:00(土曜)
時計台旅行センター	国内・海外旅行、JRチケット、航空券 レンタカー、教習所、引越手配等	10:00～19:00(平日)
※ショップルネ	生協共済加入、給付申請、 書籍、パソコン、ソフトウェア、 住まい紹介、家具、家電、教習所、 レンタカー、クリーニング、スーツ等	10:00～19:00(平日) 11:00～15:00(土曜)
中央食堂	朝・昼・夕食の提供	8:00～21:00(平日)
カンフォーラ	昼・夕食の提供 昼食時間帯の弁当販売	11:00～21:30(平日) 11:00～15:00(土日祝日)
カフェテリアルネ	昼・夕食、ハラルル食、 デザート提供	11:00～22:00(平日) 11:00～19:30(土曜) 11:00～14:00(日曜) (祝日閉店)

これら以外にも吉田南、北部、南部構内にそれぞれ食堂とショップがあります。
※住まい紹介は、平日11:00～17:00(土日祝閉店)、クリーニングは、平日11:00～18:00(土日祝閉店)です。

宇治キャンパス

店舗名	主な営業内容	営業時間
宇治購買	文具、食品、日用品、パソコン、 書籍、雑誌の販売	10:30～18:00(平日)
宇治食堂	昼・夕食の提供	11:30～14:30(平日) 17:30～20:00(平日) 11:30～14:00(土曜)

これら以外にも「宇治おうばくプラザ」にレストランやコンビニがあります。

桂キャンパス

店舗名	主な営業内容	営業時間
生協ショップ (Bクラスター)	文具、食品、日用品、パソコン、 書籍、雑誌の販売	10:00～18:00(平日)
クラスターAショップ	食品、日用品の販売	10:00～20:00(平日)
カフェテリアセレネ	朝・昼・夕食、ドリンクの提供	11:00～21:00(平日) 11:00～14:00(土曜)

これら以外にもカフェ、カフェレストラン(平日のみ)やペーカリーショップ(土日祝対応)があります。
大学の長期休暇中は短縮営業となります。詳しくは京大大学生協機関誌「らいふすてーじ」や店頭ポスター等でお知らせします。

学生総合支援センター

カウンセリングルーム

京都大学には、学生生活を送る上で出会う様々な悩みや問題を相談できる学内相談機関として、学生総合支援センターカウンセリングルームが設置されています。研究室での人間関係の悩み、研究上のあせりやストレスの悩み、進路の悩み、恋愛にまつわる悩み、家族にまつわる悩み、ハラスメントに関する悩みなど、大学院生として学生生活を送る中でさまざまな悩みに出会うことがあるでしょう。中には自分だけでは抱えきれないような問題もあるかもしれません。友人や家族にさえ話しにくいと思う内容の場合もあるでしょう。カウンセリングルームでは、心理学(臨床心理学・相談心理学・青年心理学など)を専門とするスタッフが個別に面接し、相談に応じています。
(カウンセリングルームの詳細については、ホームページをご覧ください。)

<http://www.gssc.kyoto-u.ac.jp/counsel/>

キャリアサポートルームは26ページに掲載

障害学生支援ルーム

京都大学では、障害や慢性的な疾病などによる修学上の様々な相談に応じるため、学生総合支援センター障害学生支援ルームを設置しています。支援の内容としては、修学・研究上で必要となる支援(情報保障、移動介助等)、また、支援物品の貸し出し、施設・設備の整備などです。

また、支援ルーム内の交流スペースは学生に開放しており、開室時間内で利用することができます。
(月～金曜日※祝日除く
9:00～17:00)



フリーアクセスマップ

京都大学フリーアクセスマップは、主に車椅子利用者などの移動困難者の目線で作成した新しい形のバリアフリーマップです。ご利用の方は障害学生支援ルームまでご連絡ください。

在学生の学び方

文学研究科 文献文化学専攻
博士後期課程 1年

鎌田 智恵さん

私は文学研究科で国文学を専攻しています。ここでは私自身の生活から、大学院で学ぶことについて思うことを書かせていただきます。

大学院では、学生の主体性がとても重んじられます。私がこのことを実感するポイントは二つあります。まず一つ目は、時間の使い方です。大学院に入ると、授業などで拘束される時間が少なくなり、自分の時間が増えます。よって、その時間をいかに有意義に使えるかが、研究生活を送る上で重要になります。また二つ目は、研究のテーマと方法です。私が所属する研究室では、教員は「最低限」の指導しか行わないことになっています。これはもちろん指導を行わないという意味ではなく、学生が求めれば必要な指導を受けることはできます。但しそれは研究の成果や過程を見ていただく機会であって、白紙の状態からお膳立てしてもらえということではありません。研究テーマを見つけ、それに取り組んでいく過程で、私たち自身が主体的であることが求められています。

資料の豊富な図書館や質の高い教授陣など、良い研究ができる環境は整っています。このように恵まれた環境の中で、私たちの研究生活が実りあるものとなるよう、お互いに頑張りましょう。



Student 01

在学生の学び方

Student 02

生命科学研究科 統合生命科学専攻
修士課程 1年

渡辺 佳織さん



私は現在、ショウジョウバエ近縁種を用いた食性の比較ゲノミクスをテーマに研究に取り組んでいます。大学院では研究室における活動が中心で、研究テーマに沿ってどのような実験を行うのか、自分で計画し着実に遂行していくことが必要とされます。自主性を求められることは時に厳しく感じられますが、積極的に実験したいという意欲を反映できる、とても大事なステップだと思います。また、進捗状況について研究室内で議論や発表する機会もあり、研究方針や実験計画について先生や先輩方から意見を頂けるので心強いです。

研究室での充実した生活に加え、生命科学研究科には理・農・薬など様々なバックグラウンドを持つ方々が集まっているという特色があります。そのため、他研究室との交流も盛んで、特に研究科全体でのセミナーやシンポジウムでは、多様な視点から見た熱い議論が交わされていて、非常に勉強になります。

こういった研究科内での行事や学会などで、自分の研究成果を発表できることを一つの大きな目標として、日々の研究に励んでいます。興味を持ったテーマについて、とことん追求しつつ、絶えず新しい刺激を与えてくれる仲間と一人でも多く巡り会いたいです。

Supporting 国際交流支援

京都大学から
世界のキャンパスへ

国際交流への取り組み

国際社会において、リーダーとして世界を牽引する異文化理解力、英語での交渉力、専門活用力を併せ持つ国際力豊かな人材を育成し輩出していく責任があり、世界水準の教育を提供する必要があります。この実現のため、新たな国際戦略を平成25年度に制定しました。

この国際戦略を基に、海外大学との学術・学生交流協定、国際的なネットワーク等の活動を通じた教育連携を進め質の保証を行いつつ、学生の海外派遣制度充実、留学生の受け入れ体制強化、留学生と日本人学生がともに学べる英語による講義の増加等の多様なプログラムを組成することにより、国際的なリーダーに必要な「国際性・課題解決力」を涵養します。

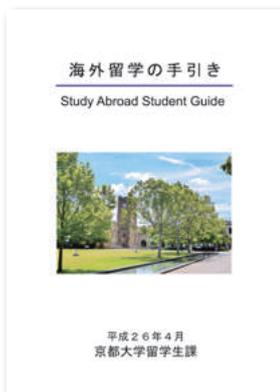
海外留学支援

派遣留学(交換留学)制度

本学の国際交流を促進するために、海外の大学と締結している学生交流協定に基づいて、互いに学生を留学させあうシステムのことです。京都大学に在籍しつつ、1年以内の1学期又は複数学期のあいだ、学位取得を目的としない留学をし、協定校での教育を受けて単位修得し、又は研究指導を受けるものです。この制度では、留学中も京都大学の授業料を納める必要がありますが、派遣先での授業料は免除されます。留学先での在学期間も京都大学における修業年限に通算されるので、所定修業年限内で卒業・修了できる場合もあります。また、協定校で修得した単位が京都大学での修得単位と認められる単位認定制度もあります。

学生交流協定には、大学同士で締結される大学間学生交流協定のほか、部局同士で締結される部局間学生交流協定があります。

『海外留学の手引き』



http://www.kyoto-u.ac.jp/ja/about/public/issue/ryugaku_tebiki/

派遣留学(交換留学)するための奨学金

大学間学生交流協定校への派遣留学生を対象とした奨学金として、次の奨学金・助成金制度があり、書類審査を経て支給されます。

- ①独立行政法人日本学生支援機構(JASSO)の海外留学支援制度(短期派遣)
奨学金 月額 60,000円～100,000円(派遣先による)
- ②京都大学教育研究振興財団からの助成を受けて、京都大学が実施する京都大学「留学派遣」渡航費の一部助成
上記以外にもJASSOが毎年発行する「海外留学奨学金パンフレット」に様々な奨学金が紹介されています。

また、京都大学のホームページでも大学に情報が届く日本人等の学生向け奨学金を掲載しています。

留学部門担当教員による個別相談

国際交流推進機構では「留学のススメ」をひとつのきっかけとして、更に具体的な留学先大学や手段に関する疑問等にきめ細やかなアドバイスをし、海外留学の実現に向けたステップアップのためのサポートを行っています。

世界へ羽ばたく「ジョン万プログラム」学生派遣事業

京都大学の国際化に資する目標の一環として、大学が主体となって次世代のグローバル人材を積極的に養成する全学的プログラム「ジョン万プログラム」を展開しています。

学生派遣に関しては、2013年度より始動し、主に大学院生を海外の世界トップ大学に派遣することにより、グローバルに活躍することができる若手リーダーの育成を目指しています。これらの学生派遣プログラムにかかる授業料・渡航費・滞在費については、派遣プログラムの区分内容に応じて大学から奨学支援を行っています。

大学院学生の派遣には、数か月間の「短期研究型」および1年間の「学位取得型」のプログラムがあり、2014年度は、昨年度の英国ケンブリッジ大学及びオックスフォード大学への派遣に加え、米国ハーバード大学への大学院生の派遣も行いました。今後さらに世界トップ大学へ規模を拡大し、より多くの大学院生にグローバル派遣への機会を提供する予定です。



「留学のススメ」の開催

海外留学に関心をもつ本学学生を対象に、4月の新入生説明会、5～7月のInternational Week(交換留学、大学院留学等)、アジア留学及び海外渡航安全説明会、また協定校紹介など、年間を通して、より具体的なイメージや計画を持てる機会として留学説明会「留学のススメ」を開催しています。



留学のススメ「大学院留学」講演の様子

長期海外留学支援の実施(日本学生支援機構への申請)

独立行政法人日本学生支援機構の「海外留学支援制度(大学院学位取得型)」に申請を行い、海外留学に必要な授業料や奨学金を確保することによって、本学の学生の外国の大学院での学位取得の一層の推進を目指しています。

これにより、国際社会への貢献等に資する人材の養成及び大学の国際競争力の強化等の一層の促進が期待されます。

授業料等を不徴収とする 大学間学生交流協定校一覧

()内数字は本学から1年間に派遣可能な学生数(平成26年3月31日現在)

欧州(NIS 諸国を含む)

- 英国
United Kingdom of Great Britain and Northern Ireland
シェフィールド大学(2)
バーミンガム大学(2)
ニューキャッスル大学(2)
エジンバラ大学(2)
マンチェスター大学(3)
ブリストル大学(2)
サウサンプトン大学(2)
- オーストリア共和国
Republic of Austria
ウィーン大学(2)
- オランダ王国
Kingdom of the Netherlands
ライデン大学(2)
ユトレヒト大学(3)
- スイス連邦
Swiss Confederation
ローザンヌ大学(2)
- スウェーデン王国
Kingdom of Sweden
ウプサラ大学(2)
ストックホルム大学(2)
ストックホルム王立工科大学(2)
- ドイツ連邦共和国
Federal Republic of Germany
ベルリン自由大学(2)
ミュンヘン大学(2)
ボン大学(3)
ハイデルベルク大学(5)
フンボルト大学(2)
ミュンヘン工科大学(3)
ゲッティンゲン大学(2)
カールスルーエ工科大学(3)
- フィンランド共和国
Republic of Finland
ヘルシンキ大学(2)
- フランス共和国
French Republic
ストラスブルグ大学(5)
グルノーブル大学連合(5)
パリ政治学院(2)
エコール・ノルマル・シュペリウール(1)
- ベルギー王国
Kingdom of Belgium
ルーバン・カトリック大学(2)

アジア

- シンガポール共和国 Republic of Singapore
シンガポール国立大学(2)
- タイ王国 Kingdom of Thailand
カセサート大学(2)
タマサート大学(2)
チュラロンコン大学(2)
- 大韓民国 Republic of Korea
慶北大学校(3)
ソウル大学校(3)
延世大学校(2)
高麗大学校(2)
浦項工科大学(2)
- 台湾 Taiwan
国立台湾大学(4)
国立清華大学(2)
- 中華人民共和国 People's Republic of China
武漢大学(2)
北京大学(5)
清華大学(2)
復旦大学(2)
浙江大学(2)
上海交通大学(2)
西安交通大学(2)
中国科学技術大学(2)
香港科技大学(2)
南京大学(2)
香港中文大学(2)
香港大学(2)
- ベトナム社会主義共和国 Socialist Republic of Viet Nam
ベトナム国家大学ハノイ校(5)

北米

- アメリカ合衆国 United States of America
ジョージワシントン大学(2)
ハワイ大学(2)
ペンシルベニア大学(2)
ワシントン大学(2)
ウィスコンシン大学マディソン(2)
- カナダ Canada
トロント大学(3)
ケベック州大学学長校長協議会(5)
ウオータールー大学(6)

大洋州

- オーストラリア連邦 Commonwealth of Australia
メルボルン大学(3)
ニューサウスウェールズ大学(2)
シドニー大学(2)
オーストラリア国立大学(2)
クイーンズランド大学(2)
- ニュージーランド New Zealand
オークランド大学(2)

中南米

- ブラジル連邦共和国 Federative Republic of Brazil
サンパウロ大学(2)
- メキシコ合衆国 United Mexican States
グアダハラ大学(2)

中東

- イスラエル国 State of Israel
テルアビブ大学(2)
- トルコ共和国 Republic of Turkey
コッチ大学(2)

「きずな」にて(留学関係資料提供、国際交流等)

留学生ラウンジ「きずな」では、海外留学のための情報資料を常備して提供しつつ、定期的に様々な交流イベントを開催して、日本人学生と外国人留学生の交流の機会を設けています。

これにより、双方の国の文化や生活様式などの紹介、友人作り、語学力の研鑽など、学生自身が主体的に利用できる場となっています。



留学生ラウンジ「きずな」外観

危機管理体制等

本学における国際交流の進展による海外留学や研究渡航、国際シンポジウム参加などの機会が増加することに伴い、本学国際交流推進機構が全学的に部局と連携しながら、その国の安全情報入手に努め、治安情勢を勘案した指針等により対応しています。

学生の海外渡航が増加する夏季休業期間前には、海外渡航安全説明会を開催しています。

その他、「国際交流安全ガイド(渡航編)」を発刊して、渡航前の準備段階から海外滞在中、帰国までの間に想定されるトラブルへの心構えや対処法等を提供するなど、未然に事故や病気、不測のトラブル等を回避できるように努めています。



KCJS、SJC

KCJS / SJC 英語講義の受講

KCJS/SJC 英語講義の受講制度は、米国の高等教育機関が京都で提供する英語講義を、米国大学生と共に受講する制度です。毎学期、募集・選考が行われ、各クラスに2~3名の京都大学生が講義に参加します。京都大学受講生にも米国の学生と同様の課題が課せら

れ、英文レポートや英語での討論が求められます。本講義には京都大学から単位が付与される場合があります。京都に居ながら、米国のトップスクールへ留学したのと同じような環境を経験できる制度です。

KCJS (Kyoto Consortium for Japanese Studies、京都アメリカ大学コンソーシアム)

KCJSは1989年に京都市内に設立され、日本研究を志す米国の大学生が毎年約40~50名来日して、日本に関する講義を受けています。参加大学は、ボストン大学、ブラウン大学、コロンビア大学、コーネル大学、シカゴ大学、エモリー大学、ハーバード大学、ミシガ

ン大学、ペンシルベニア大学、プリンストン大学、スタンフォード大学、ワシントン大学(セントルイス校)、イェール大学、バージニア大学です。KCJSプログラムの参加学生は2年以上の日本語学習経験があり、日本語や日本文化に深い関心を持っています。

SJC (Stanford Japan Center、スタンフォード日本センター)

SJCは米国スタンフォード大学が運営する機関として1990年に誕生しました。日本との関わりを持つ上で必要となる知識・資質を身につけたアメリカの若い世代の育成を目的とした日本留学プログラムを提供しています。参加学生の専攻は工学、自然科学、経済学、政治

学、国際関係学等多岐にわたっていますが、技術系専攻の学生が多いのが特徴です。日本語教育にも力を入れており、来日前にはスタンフォード大学本校において日本語授業の履修が義務づけられている他、来日後は毎週6時間の日本語の授業が必修科目となっています。

留学経験者の声

農学研究科農学専攻雑草学分野

尾崎 由布子さん

留学期間：2013年9月から2014年7月まで
 留学先：ワシントン大学（アメリカ合衆国）

私は、深くかわりあいながらも対立することが多い農業、人、自然環境の関係性に関心を持っており、農業的観点だけでなく、環境からのアプローチについてもっと知りたいという考えから、ワシントン大学の環境園芸コースを留学先として選びました。環境園芸は、植生の利用、管理を通じて損傷した生態系を回復させることを目的としています。私はコースワークを中心に、公園などで植生のデザインおよび施工をする環境復元プロジェクトなどの実習を履修しました。いくつものグループワークをこなす中で、さまざまな専門分野、国籍、年齢の人々が協働してひとつのものを作り上げる面白さと難しさを知り、情報共有、役割分担の明確化が不可欠であることを学びました。シアトルで先進的な環境復元の現場に触れたことで、この分野により深く関わってみたいと思うようになりました。残念ながら、時間的制約のために実施後のメンテナンスや経過観察はできませんでしたが、またプロジェクト地を訪れて、その後を見てみたいと考えています。

一年間という期間は長いようであつという間でしたが、まったく新しい環境や人間関係の中で過ごすという体験は、自分を見つめなおし、今後何をしたいのかを考えるよい機会になりました。最初の一学期間は勝手がわからず、相談する人も少なかったので辛いときもありましたし、プロジェクトが思い通りに進まないといった問題もありましたが、それらを乗り越えたことで、少し自分に対して自信が持てるように

Voice 01



右が筆者

になりました。

留学は新しいことに挑戦するチャンスでもあります。例えば、もともと私はあまり運動が得意ではないのですが、アメリカではスポーツが盛んだつたので、気づけばサッカーやヨガに参加したり、サイクリングで何時間も走ったりするようになりました。スポーツに限らず、アウトドア、映画、ボードゲーム、料理などの趣味も、言語に頼らないコミュニケーション手段として、交友関係を広げ、文化を理解する良いきっかけになるでしょう。

留学経験者の声

経営管理教育部経営管理専攻

井手迫 亮太さん

留学期間：2013年9月から2014年6月まで
 留学先：コッチ大学（トルコ共和国）

私はあまり計画的に、高い志を持って留学に望んだわけでは無かったので、偉そうな事をいうことは出来ませんが何かしらの手助けになればと思い、留学した理由と思ったことを書ければと思います。

私の留学した理由は、「外国人になる」経験をしておいた方が、少しは柔軟な人間になれるかなと思ったからです。留学中にも色々と直面した問題だったのですが、色々と少数派は大変です。それを経験できたというだけでも留学は成功だったのかなと思います。

地理的に欧州・中東の学生が大半をしめ、その他地域からの学生は少数です。人間はコミュニティを作るのが好きなので、少数派だと何でも自分で切り開いていかないといかないと、意外とそれは大変です。それでも、そういう状況下で自分がどう反応するかを観察するのは自分のことを理解するのに役に立ちます。何だかんだとうまくいっていた日本での生活で誤魔化せてた部分が通用しなくなります。自分が弱いところも見つかるし、まあそんなもんかと思ったり、結構重要な発見だったりもします。

少しネガティブな事を書いてしまいましたが、大変なこともあるよという事を理解してしまえば概して留学は楽しいです。留学生というものは性質上、優しく、面白い人が多く、一緒に飲んで騒げば楽しいです。お酒の値段に文句を言ったり、酔った時の失敗の笑い話をしたり、やっていることは一緒です。それでも出身・文化・言語が違えば価値観も違う

Voice 02



し、誰でも自分の知らない世界を知っています。

英語に関していうと、喋れたほうがいいですが、いいヤツ・面白いやつであることのほうが重要です。ただリスニング力はある程度向上させていたほうがいいでしょう。疲れます。

何にしても、誰に何と言われようと思いたいなら行けばいいし、行かないでいいかと思えば行かないでいいと思います。少なくとも私自身は留学の機会を下さつた方々にとても感謝しています。

Supporting 就職支援

社会での活躍をめざして

学生の希望に沿ったキャリアデザインを支援

大学と社会との関わりが深化・多様化する中で、高度な専門性を有する人材が、大学等の研究機関以外の多様な方向へ進み、その能力を活用することが期待されています。

学生総合支援センターキャリアサポートルームの活動について ▶

キャリアサポートルームは、学生の就職活動・キャリア形成を支援することを目的として、就職活動に役立つ各種資料・情報を提供するとともに、キャリア教育としての各種セミナーや講座、インターンシップや就職活動のためのガイダンス、合同企業説明会、公務員志望者のためのガイダンスや説明会などを開催しています。また、就職活動に関わる様々な問題や悩み事に窓口で対応するとともに、個別相談のための就職相談室を開設しています。

- キャリアサポートルームのホームページ
<http://www.gssc.kyoto-u.ac.jp/career/>
- 求人票の検索システム
<http://career.gakusei.kyoto-u.ac.jp/>

[場所・利用時間(平日のみ)]

- 吉田キャンパス 旧石油化学教室本館 1 階(平日の月～金)
午前 9 時～午後 5 時
- 桂サテライト 船井交流センター 3 階(平日の月～金)
午前 11 時～午後 1 時、午後 1 時 45 分～午後 5 時
- 宇治サテライト 生協会館 2 階(平日の月・水・木のみ開室)
午前 11 時～午後 1 時、午後 1 時 45 分～午後 5 時

※ ただし、ガイダンス実施等のため臨時に休室することがあります。

キャリアサポートルームの主催行事と参加者数

平成 25 年度実施イベント	人数
就職ガイダンス(全 5 回)	855
業界研究セミナー(全 4 回)	744
キャリアデザイン講座(全 5 回)	388
合同企業説明会(全 7 回)	2,548
公務員関係ガイダンス等(全 14 回)	549
就職セミナー(全 21 回)	2,161
ホームカミングディ(OB・OG 交流会)	107
インターンシップガイダンス	350
内定者による相談会(全 6 回)	43
SPI 模擬テスト等(全 4 回)	369
就職相談室(225 回)	1,329
世界に飛躍する京大生のためのキャリア形成(全 3 回)	167
博士・ポスドク対象セミナー(全 3 回)	187
合計	9,797

大学院生に対するキャリア支援について ▶

京都大学では修士修了で就職をする方が学部卒で就職をする方の約 1.6 倍になります。特に近年は、専門性の高い大学院教育を受けた方への注目が強くなってきていますが、同時に社会性やコミュニケーション能力も必要とされているため、広い視野と豊かな人間力を身につけることが求められています。

このためキャリアサポートルームでは、大学院生を対象に、就職活動支援のみならず、より豊かな人間力を養成するためにさまざまなセミナーを開催しています。平成 26 年度は、「大学院生のための就職ガイダンス」などのプログラムを実施し、大学院生ならではの強みを認識し、将来にわたって人生の設計が図れるようにサポートをしています。

博士・ポスドクの就職活動支援について ▶

京都大学では、研究者を目指して博士課程に進学する方が多数います。博士課程で高度な専門性を身に付けた研究人材は、大学や研究機関だけでなく、社会の様々な場面で求められています。京都大学キャリアサポートルームでは博士課程の学生やポスドクを対象に企業とのマッチングや個別カウンセリング、合同企業説明会を開催し、若手研究人材の多様なキャリア選択を支援しています。

- 京都大学若手研究者キャリアパス多様化促進事業(KUCP)
<https://kucp.gakusei.kyoto-u.ac.jp/kucp/about>

学びコーディネーターについて ▶

本学では、高大連携事業の一環として「学びコーディネーター事業」を実施しています。これは、本学の大学院生等を高等学校に派遣する「出前授業」、または本学を訪れる高校生に対する「オープン授業」という形で、高校生の学習内容に対する関心と理解を高め、主体的学びと志を涵養することを目指しています。



大学院生は、自らの研究内容を高校生にとってわかりやすく、かつ高校生が興味を持てるような教材にまとめ、授業をします。この教育現場での体験は、自身の研究内容をわかりやすく伝える貴重な教育経験の機会となっています。大学院生にとっては、直接授業に対する反応が返ってくる面白さと難しさを味わい、キャリア形成に役立つものとなっています。

大学院生のための教育実践講座「大学でどう教えるか」▶

将来、大学教育に携わりたいことを希望している本学の大学院生(PD、研修員などを含む)を対象とした「大学院生のための教育実践講座—大学でどう教えるか—」は、ファカルティ(大学教員)へと自己形成していくきっかけとなる場を提供するもので、Basic(初参加者向)とAdvanced(本講座または大学授業の経験者向)の2つの講座を設けています。毎回、受講生からは「大学教育を考える視点が広がった」「院生同士のネットワークができた」と好評を得ており、実践講座の各プログラムの全てに参加した院生には、総長の修了証が授与され、就職に向けての1ステップになります。



先輩の声 01



工学研究科 機械理工学専攻
二村 有哉さん
東海旅客鉄道株式会社 (JR 東海)

私は、2006年に工学研究科の機械理工学専攻に入学し、材料強度に関する研究を2年間行いました。研究室では、実験の適切な進め方、実験結果に対する論理的な考察の書き方、説得力のある発表資料の作り方など、研究の一連のプロセスを先生にご教示いただきました。ときには、研究室の先輩や同期達と議論することで、新たな実験手法を考案したこともあります。何事にもチャレンジできる自由な雰囲気恵まれ、多くの失敗も経験しましたが、多くの成功も経験できました。研究室で過ごした2年間で工学の面白さに触れ、将来は技術的な仕事に就いて、社会に貢献したいという気持ちが一層強くなりました。



卒業後、私は東海旅客鉄道株式会社(JR 東海)に入社し、鉄道車両技術に関する業務に携わっています。当社では現在、2027年に予定している東京-名古屋間の中央新幹線の開業に向けて、超電導ニアシステムの技術のブラッシュアップを進めています。

思い返せば、大学での基礎研究を進めるプロセスと、民間企業での技術的業務を進めるプロセスには共通点がいくつもあり、研究室での経験が非常に役立っていることを実感しています。皆様も、京都大学で学び、その経験が糧となって、ご自身の思い描く将来の夢を実現されることを願っております。

先輩の声 02



経済学研究科 経済動態分析専攻
池島 祥文さん
横浜国立大学大学院国際社会科学研究院准教授

私は2001年に京都大学経済学部に入学生ののち、大学院経済学研究科に進学し、2011年4月から横浜国立大学に着任しました。京都大学は「自由な学風」が特徴とされていますが、特に大学院では「自由」「自立/自律」と表裏一体です。

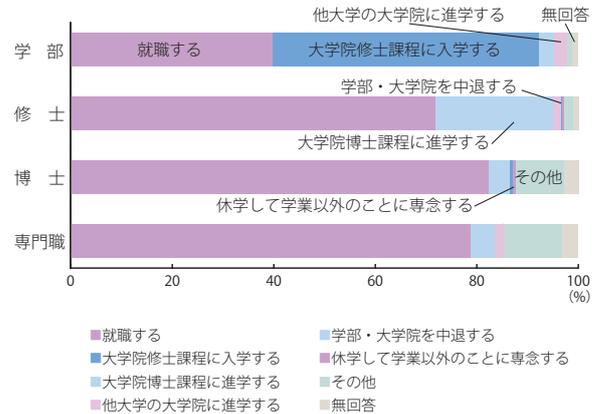
研究面では、研究テーマの設定やその進め方などが自由であればあるほど、それらを自分自身でマネジメントする必要があります。とはいえ、まだ大学院生の時に全てを自分でできるわけがありません。そこで指導教員をはじめとした先生方や大学院・研究室の仲間、さらには、職員の方々との「コミュニケーション」が重要になるわけです。研究は自分ひとりではできず、まわりのサポートがあってこそなのです。

自立した姿勢は研究者にとって決定的に不可欠ですが、こうした姿勢を培うには京大のように「自由な研究教育環境」が醸成されていないと難しいでしょう。与えられた研究環境や研究課題をただ受け入れて研究を進めるだけでは、独創的な研究成果はあげられません。その点、京都大学大学院では、自らに必要な研究環境を生み出していく能力も身につけることができます。独創的な研究課題、さらには、それらを支える研究環境をつくりだせる自立した研究者を目指して、ぜひ、京大に飛び込んでみてください！

京都大学学生生活白書

(平成25年度より)

京大生の進路希望



先輩の声 03



薬学研究科 創薬科学専攻
佐藤 康彦さん
塩野義製薬株式会社
フロンティア医薬研究所 研究員

私は2008年3月に薬学研究科大学院博士後期課程を修了し、同年4月より塩野義製薬株式会社の研究員として創薬シーズの探索を行っております。大学院では5年間タンパク質のX線結晶構造解析一筋に研究に没頭する日々を過ごしました。成果が挙げられず苦しい日々が続くこともありましたが、このような日々の支えになったものは、高いハードルに共に取り組んだ同僚、諸先輩方、そして粘り強い指導を賜った先生方の存在でした。京都大学には全国から優れた研究者あるいは学生が集まり、素晴らしい人材の宝庫を形成しています。多くのことを吸収できる年齢において多彩な才能の中で切磋琢磨できることは他を知り自己を高めるために最適な機会であると言えます。とりわけ、超一流と呼ばれる研究者や、飛び抜けた才能を有する学生との交流はかけがえの無い体験になると思います。

大学院は一般的に修士2年、博士3年と時間が限定されています。研究は時間を要するものと申しつつも、この決められた時間のなかで自分自身の達成すべき目標を設定し、計画を立てて遂行できる能力は社会生活を送る上でも必須の力です。卒業後の自分のあるべき姿を描き、そのために必要なことを自ら求めて行動し、教えを乞う、こういったことに京都大学は確実に応える環境を整えていると思います。皆さんも京都大学を最大限に活用し、大きく社会に羽ばたいていくきっかけにして頂ければと思います。